

医療クラークって？

(以下クラークと呼びます)

医師が行う診断書作成やカルテの入力等の事務作業を補助するスタッフのこと。

Clark【クラーク】
英語で書記、事務員、秘書のこと。

五省会の特徴

手術とリハビリで 患者さんの生活を支えます。

病気があっても充実した生活を！

関節リウマチの炎症を抑えることと同様に、日常生活での障害を最小限にとどめることも重要です。関節破壊が進行した場合や痛みが残存した場合は、手術やリハビリテーションを組み合わせ、患者さんのQOL(Quality of Life=生活の質)を最大化することを目標としています。

手術

破壊された関節は関節リウマチ薬では元に戻すことができません。損傷した関節を人工関節に入れ替える手術などを行います。



リハビリテーション

痛みにより日常生活動作に支障が出る場合は補助具の選択や関節を保護する生活指導を行います。また運動指導により、関節の動きや筋力の低下を防ぎます。

協力して治療に取り組みましょう！



富山大学附属病院
整形外科 診療教授
まつした いさお
松下 功 医師

発症したら長く付き合っていかなければなりません。しっかり治療すると、寛解もしくはそれに近い状態になります。寛解を維持すれば薬を減らすことも可能です。一緒に頑張りましょう！

整形外科センター 西能クリニック リウマチ科

毎週水曜 午後 2:00～6:00
(※初診受付は5:00まで)

第2・4金曜 午前 8:30～11:30

診療枠が増えました！

五省会の関節リウマチ診療

五省会では医師と医療クラークが連携して関節リウマチの診察を行います。また、関節リウマチの炎症を抑えるだけではなく、患者さんのQOLを維持するため、必要に応じて手術やリハビリテーションを行います。

診療の流れ

事前準備

診療計画に沿ってすすめます

患者さんごとの診療計画を医師とクラークで共有し、厳重に管理しています。過去の検査履歴などから、当日必要な検査等を事前に確認しておくことで、検査の抜けがなく、手際の良い診療が可能になります。

診察

医師とクラーク、二人三脚で診察！

患者さんの関節の腫れや痛みなどを、一つひとつ医師が評価。同時にクラークはカルテに代行入力し、評価を数値化します。医師はその数値を前回の指標と比べ、治療方針を決定していきます。



クラークが入力作業をするため、医師は患者さんと常に対面しながら診察できます。二人三脚の診察をすることで、精度やスピードが上がります。

検査

血液検査・レントゲン検査・エコー(超音波検査)・骨密度検査などを行います。



治療 薬物療法が一般的

従来型抗リウマチ薬

免疫異常を改善させる薬です。炎症を抑え、寛解を目指します。主に飲み薬です。

生物学的製剤

通常、従来型抗リウマチ薬の効果が得られない場合に使用します。開始から数週間で炎症反応が改善され、痛みや関節の腫れも引いていきます。また骨破壊の進行を止めることで、関節の変形予防が期待できます。皮下注射、点滴注射があります。

通院は月に1回程度必要です



西能クリニックでは4月からリウマチ科の診療時間を拡大。富山大学からの派遣医・松下医師に、五省会の関節リウマチ診療について教えていただきました。

特集2

知ってる？

関節リウマチのこと

早期発見・専門的治療がカギ！

関節リウマチって どんな病気？

関節リウマチは、関節が炎症を起こし痛みや腫れが生じる病気です。進行すると軟骨や骨が破壊されて関節の機能が損なわれ、日常生活に様々な障害を引き起こします。



女性に多い

30代～50代の女性に多く発症

女性の発症は男性の4倍

原因は…

細菌感染やストレスなどの環境因子に加えて遺伝が原因とされていますが、明確には判明していません。種々の要因により免疫の働きに異常が生じ、発症すると考えられています。

この症状、関節リウマチかも？

典型的な初期症状は主に次の3つ。
このような症状が出たら、関節リウマチの可能性が考えられます。
●朝起きた時に関節がこわばっている
●複数の関節が痛く、腫れている
●全身に倦怠感を感じる

放っておくとこんな危険も…

関節の破壊・変形

火事で燃えてしまった柱が、消火しても復元しないように、一度破壊されてしまった関節は元には戻りません。関節が破壊されると、「掴む」「座る」「歩く」といった日常生活動作が困難になります。



合併症にも注意が必要

感染症

リウマチ薬は免疫を抑制するため、肺炎などの感染症が生じる可能性があります。

骨粗鬆症

関節リウマチの患者さんは、年齢に関係なく骨粗鬆症になりやすい傾向があります。

早期発見で病勢を最小限に抑えよう

病気の進行を止め、最適な治療をすることが重要です。発症して約6ヶ月までの「発症早期」に治療を始めると、腫れや痛みがなくなり、血液検査でも異常がない「寛解」の状態を目指すことができます。

また発症から6ヶ月以上経っている場合でも、確かな治療を継続すれば、疾患の活動性を最小限に抑えることができます。よい状態を維持するためにも、ストレスの少ない健康的な生活と、治療の継続が必要不可欠になります。

早い時期に専門医のもとで治療を行うことが大切です。
「関節リウマチかもしれない…」と感じたらリウマチ科にお越しください。

